水神社の由緒

下総の国に椿湖（つばきのうみ）と呼ばれる、太古以来神秘の水をたたえた霊湖がありました。今から三百余年前の寛文年間に、この湖を干拓して農地をつくろうとはかり、幕府の許可を得て工事に着手しました。

起工に当たり水の神様の水波売大神（みずはのめのおおかみ）の御神霊を、湖畔の清浄な地に奉斎（おまつり）し、大願成就の祈願をした日が寛文九年九月廿一日（一六六九）ということで、戦前はその由緒によって陰暦九月廿一日が、水神社の祭礼と定められていた訳であります。（現在の例祭は十月十六日・十七日）

水神様の御加護とお導きによって、古今未曾有の大事業は完成し、ここに椿新田十八郷が誕生し、今日の美田とわが郷土繁栄の基が築かれたのであります。

我々の祖先は、ここに改めて神恩の広大さに感激し、先に祈禱を捧げた神域に社殿を造営して御神徳を仰ぎ、新田十八ヶ村の鎮守として感謝の誠を捧げたのであります。

続いて延宝六年（一六七八）には、水神社に対して官許があり、新田五町歩（五ヘクタール）を神饌料として後世に伝えられました。（農地法により開放）

そうして三百余年水神様は、干潟八万石開拓の祖神（おおやがみ）として、郷民崇敬の中心となり今日に至ったのであります。